

15 (13):27~30.

愛知県渥美半島

芦ヶ池にヒメビシ

中井 三従美

ヒメビシは全国各地の池沼やため池の浅水中に群生する浮葉性の一年草。分布的にはヒシやオニビシより極めて少ない。これまで、岐阜県南濃町No.39坊主池、笠松町No.44トンボ池、羽島市No.90木曾川右岸の沼、愛知県刈谷市No.50大池でヒメビシ漂着果実を採集した。その後、愛知県渥美町でオニバスの研究をされている伊藤三世氏の情報提供で、1989年8月5日、池No.52芦ヶ池を再び調査した。池の北側はハス群落(赤花)、南側はヒシ群落で池面が殆んど覆われていた。池を1周してヒシ属の漂着果実を調べ、北側一帯のハス群落で四刺性小形の漂着果実を7個拾った。果実の大きさ、なめらかさ、形状から明らかにヒメビシであった。この芦ヶ池のヒメビシは、背腹刺針の逆小刺針は認められない。

○文献リスト<1989- (3)>

- 青山 勲. ホテイアオイを用いた水質浄化能と実用化への今後の課題. ホテイアオイ研Newsletter (15): 6-9.
- 荒巻 稔・土谷岳介・岩城英夫. 霞ヶ浦高浜入におけるコウホネの沈水葉の光合成特性. 日生態会誌 39: 189-193.
- 伊藤一幸. 水田雑草オモダカの生態と防除に関する研究. 雑草研究 34: 101-106.
- . 宮原益次. 水田多年生雑草オモダカ繁殖体の生存状態と出芽に関する生態学的研究 第4報 水田における塊茎の休眠覚醒時期. 同上 34: 154-162.
- . 同 第5報 塊茎からの発消長と出芽に及ぼす要因. 同上 34: 299-307.
- 今西 競・沖 陽子・中川恭二郎. 沈水雑草クロモの繁殖器官の萌芽に関する予報. 農学研究 62: 49-61.
- 沖 陽子. 海外におけるホテイアオイの評価. ホテイアオイ研Newsletter (15): 13-15.
- . 今西 競・中川恭二郎. 沈水雑草オオカナダ

- モ、クロモ、コカナダモの生育環境及び外部形態の変異性に関する研究. 農学研究 62:31-48.
- 加藤藤重. 草加市のキタミソウの分布状況. 野草 55: 131-133.
- 喜納政修・屋良朝徳・照屋 洋・渡久地聡・永井一寛. 沖縄におけるホテイアオイによる窒素除去. 琉球大学工学部紀要 (37):23-29.
- 国井秀伸. 島根県平田市のため池の水質と水生植物の現況について. 島根野生研会報 No. 6:9-11.
- 米虫節夫・藤田藤樹夫・横山裕彰・山縣 敬. 淡水産植物コカナダモの微生物分解. 近畿大農学部紀要 22: 39-45.
- 芝山秀次郎. 最近における水田雑草防除の諸問題. 農業技術 44: 312-315.
- 千葉和夫・近内誠登. 多年生水田雑草コウキヤガラの防除法確立に関する基礎的研究 第4報 薬剤による防除について. 雑草研究 34: 146-153.
- 富久保男. 岡山県におけるホテイアオイの生態と防除に関する研究. 同上 34: 94-100.
- 外山雅寛. 北海道における植物分布の新知見(Ⅱ). 北方山草(8):42-55. [ヒンジモ、ナガレヒメタヌキモ、他の記録がある]
- . 北海道の食虫植物. 同上 (8):99-126.
- 猶原 順・石井 猛. ホテイアオイ中のペクチン含量. 日本食品工業学会誌 36: 583-586
- 中井三従美. 愛知県常滑市におけるため池の現況. ため池の自然(10):13-14.
- 根本清一・小倉 力. 湿生植物による小規模ため池の堤体漏水診断法. 農業技術 44:200-203.
- 野口信行. 岡山県におけるホテイアオイによる水質浄化について —行政の立場から—. ホテイアオイ研 Newsletter (15):2-4.
- 橋本卓三. 東広島市内ため池のガガブタ. 最近の変化. ため池の自然(10):15-16
- 浜島繁隆. 名古屋周辺のため池にみられる水草相の変貌(4) 濁池(豊明市)の水草相22年間の変化. ため池の自然(10):7-9.
- S.C.H.バレット(沖陽子訳). 猛威をふるうホテイアオイ. サイエンス 19(12):100-109.
- 藤目信行. 旧吉野川流域のホテイアオイ防除と対策について. ホテイアオイ研 Newsletter (15):4-6.
- 船越真樹. 木崎湖におけるコカナダモの衰退. 長野県植

- 物研究会誌 (22):11-17.
- 本村輝正. 水田におけるホテイアオイ栽培上のいくつかの問題点について. 雑草研究 34:261-265.
- 宮崎 昭. ホテイアオイの飼料的利用について. ホテイアオイ研 Newsletter (15):9-11.
- 渡辺隆之. ホテイアオイを活用した土壌改良法開発調査について. 同上 (15):12-13.
- Chen, Y. - L., H. - C. Chiang, L. - Q. Wu & Y. - S. Wang. Residues of Glyphosate in an aquatic environment after control of water hyacinth (*Eichhornia crassipes*). Weed Res., Japan 34:117-122.
- Oki, Y. & K.R. Reddy. Variation in productive characters of water hyacinth in Florida. Weed. Res., Japan 34:107-116.
- Satake, K., M. Nishikawa & K. Shibata. Distribution of aquatic bryophytes in relation to water chemistry of the acid river Akagawa, Japan. Arch. Hydrobiol. 116:299-311.
- Shimoda, M. Moliniopsis marsh vegetation of the Ohasa basin, Hiroshima Prefecture, western Japan. Hikobia 10:327-338.
- Takimoto, A., S. Kaihara, N. Hirai, K. Koshimizu, Y. Hosoi, Y. Oda, N. Sakakibara & A. Nagakura. Flower-inducing activity of water extract of *Lemna*. Plant Cell Physiol. 30:1017-1022.
- Tanaka, O., M. Kuwata, K. Izawa & G. Takebe. Comparison between induction of flowering by nitrogen deficiency and that by short days or continuous irradiation with blue or low intensity white light in *Lemna paucicostata*-6746. Plant Cell Physiol. 30:1139-1144.
- Tsuchiya, T. Growth and biomass turnover of *Hydrocharis dubia* L. cultured under different nutrient conditions. Ecol. Res. 4:157-166.
- & S. Nohara. Growth and life span of the leaves of *Nelumbo nucifera* Gaertn. in Lake Kasumigaura, Japan. Aquat. Bot. 36:87-95.
- Uchiyama, H. Karyomorphological studies on some taxa of the Helobiae. J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 222:271-352.
- Ueno, O., M. Samejima & T. Koyama. Distribution and evolution of C₄ syndrome in *Eleocharis*, a sedge group inhabiting wet and aquatic environments, based on culm anatomy and carbon isotope ratios. Ann. Bot. 64:425-438.
- Umebayashi, O. Eelgrass productivity on an intertidal flat of central Japan. Bull. Tokai Reg. Fish. Res. Lab. (127):17-30.
- Wiegleb, G. & Y. Kadono. Growth and development of *Potamogeton distinctus* in an irrigation pond in SW Japan. Nord. J. Bot. 9:241-249.
- & ———. Growth and development of *Potamogeton malaianus* in SW Japan. Nord. J. Bot. 9:167-178.
- 補遺<1976~1988>
- 井上幸三, 1986. 夜沼とはか二つの湖沼の水草について. 岩手植物の会報 (23):1-4.
- ・吉田 稔, 1981. 白沼の浮葉植物について. 同上 (18):3-6.
- ・———, 1983. 岩手県湯田町「湯川沼」の環境と植生. 同上 (20):31-36.
- 大賀宣彦, 1988. 印旛沼周辺のヨシ帯によるNとPの取り込みの推定とその水質浄化に与える効果について. 千葉大学環境科学研究報告 13:45-50.
- 櫻村利道, 1988. 裏磐梯五色沼の植生・地学雑誌 97:362-367.
- 亀岡 弘・貴志秀人・分部雅治, 1979. 淡水産植物による河川の汚濁物質の除去に関する研究 (第1報) 淡水産植物に含有するフタル酸エステル. 近畿大学公害研究所研究報告 (7):37-42.
- ・尾本裕司・岡崎雄交, 1982. 同 (第2報) 数

種の淡水産植物に含有する金属元素. 近畿大学
環境科学研究所研究報告 (10):31-34.

———・山本博昭・宮沢三雄, 1984. 同 (第3報) フ
タル酸エステルの除去. 同上 (12):45-49.

———・———・———, 1985. 同 (第4報) 金
属元素の除去. 同上 (13):25-30.

———・栗山博之, 1985. 同 (第5報) 農薬類の除去.
同上 (13):31-35.

———・———・西井基夫, 1986. 同 (第6報) 金
属元素の除去. 同上 (14):27-32.

———・———・———・宮沢三雄, 1987. 淡水
産植物による河川、湖沼の汚濁物質の除去に関
する基礎的研究 (第7報) 浮漂性水生植物の利
用. 同上 (15):51-54.

———・———・桜井茂樹・———, 1988. 同
(第8報) 金属類の取り込み. 同上 (16):35-
49.

喜納政修, 1988. 沖縄におけるホテイアオイの生長. 琉
球大学工学部紀要 (36):23-28.

久末忠司・黄之瀬健志・川本和昭・辻田啓志, 1987. 琵琶
湖内湖の価値 一内湖浄化力の調査報告一.
技術と人間 16 (11):50-60. [内湖の水草にふ
れる]

嶋田典司・矢島 聡・渡辺幸雄, 1988. オオサンショウ
モによる水質浄化に関する研究 (1) オオサ
ンショウモによるN、P吸収の基礎的実験. 千
葉大学園芸学部学術報告 (41):15-21.

橘ヒサ子・佐藤 謙, 1985. 大雪山系原始ヶ原の湿原
植生 —北海道高地湿原の研究 (VII). 北海道
教育大雪山自然教育研究施設研究報告 (20):
1-20.

———・佐藤秀之, 1986. 暑寒別岳雨竜沼湿原の植生.
同上 (21):19-46.

田畑貞寿・白子由起子・嶋田典司・渡辺幸雄, 1988. 湖
沼域における水辺緑地の造成に関する基礎的研
究. 千葉大学園芸学部学術報告 (41):61-66.

南川 幸・広 正義・石田典子, 1987. わが国の代表的
なニュータウン建設をはじめ、大都市圏におけ
る都市化地域の水生、水辺植生の現状. 名古屋
市立保育短期大学研究紀要 26:4-77.

(次号につづく)

篠 遠 先 生 を 悼 む

原 田 市 太 郎

本会会員、望天篠遠喜人博士帰天(1989、9月16日)。
94才。信州諏訪の出自。東大・理・植、1920(大9)年
卒業。植物遺伝学・細胞学の研究を基盤として、広く
“科学活動”に活躍。

性染色体を調べられたとき、クロモに関心をもたれた。
「方々のクロモを集めて、もう一度チェックしたい。東京
周辺に2倍(体)があった。クロモは染色体が大きい、
数も多くない、性染色体がまだはっきりしていない、栽培
も楽である…」というお便りを以前もらいました。

本会発足の第1回大会に出席され、“お祝いの芳志”
をいただきました。

私は第13番目あたりの弟子。“単子葉植物の核型調査”
を先生は一つのテーマとされて居られ、私は“ヘロビエー
(沼生群)の核型”という卒論題目をもらいました。これ
がきっかけで、私は水草にかかわり合ったわけです。

先生は穏和で包容力の広いお人柄。研究・教育・啓蒙
に八面六臂のご活躍でした。静かな信仰のお方でした。
亡くなられる寸前に、40年間に亘って書き重ねられた
「私訳聖書」ができて上がり、ご満足のおんことであつた
らうと拝推申しております。 以上。

投稿規定を定めるにあたって

すでにお気付きかと思いますが、今回より本誌の投稿
規定を定めました(20頁)。今後は、この規定にしたがっ
て、投稿いただくようお願いします。

水草研究会会報は、次号で40号となります。この間、
多くの方から御寄稿をいただき、水草に関するさまざま
な知見や情報を蓄積してまいりました。そして水辺の自
然の現状への危機感と関心が高まる中で、この会報の役
割も、ますます高まってきています。このような状況に
対し当会報の一層の充実をはかるためには、いくつかの
課題があります。ひとつは、専門的な報文の寄稿に対応
できる体裁を整えることです。今回の投稿規定に英文タ
イトルや英文アブストラクトのことを加えたのは、その
ためです。しかし、これは、当会誌を研究報文中心の専
門誌にするということを意図したものではありません。
研究会報として会員の研究発表の場を提供するとともに、
水草への親しみと理解を増し、かつまた会員相互の親睦